

エアコン1台で 住宅全室冷暖房

室蘭のモデルハウス



ウチイケなど 年明けから実証事業

住まいのウチイケ（室蘭市八丁平、内池秀光代表取締役）のモデルハウスで、1台のエアコンで住宅全室の冷暖房ができる新システムの実証事業の実施が決まった。道内住宅設備メーカーや研究機関と連携した事業で今月中旬に改修、年明けからデータ計測に入る。省エネや快適性のデータを

得て技術の確立を目指す。ノーステック財団（札幌）の事業採択を受け、住まいのウチイケとエコテック（札幌）、北海道科学技術

大学寒冷地環境エネルギーシステム研究所（同）など5社が連携し開発する。モデルハウスに設置するのは、一般的なエアコン1

台で住宅全室を冷暖房するシステム。エアコン本体が入った設備に6基の省エネ型送風機を設置し、床下に設置する配管を通じて各部屋に送風。全室を冷暖房できる仕組み。温度設定すると室温を保てるという。

セントラルヒーティングは初期投資がかかり、ボイラーの燃焼でCO₂を排出し維持費もかかる。冷房はエアコンを追加する必要もある。従来のエアコンは全室を冷暖房できなかった。高気密・高断熱住宅とシステムで課題解決を図る。

実証事業は八丁平のモデルハウスで行う。エアコンで温度調整された空気のため、熱い風、冷たい風が直接当たらず快適で、床下送風により建物内の寒暖差による心疾患も防げるという。改修後の来年1月から3カ月間、24項目の環境計測を行い実効性を確認する。

光熱費ゼロの省エネ住宅の普及に力を入れる内池代表取締役は「エアコン1台

で冷暖房できる夢のシステム。求められる高い住宅性能に社の技術で応え、低炭

素社会の実現につなげた」と語った。

（粟島暁浩）

実証事業が行われるモデルハウス前で
意気込みを語る内池代表取締役